

【小学校・ボランティア活動など社会奉仕に関わる体験活動】

子どもヘルパー活動  
熊本県産山村立山鹿小学校

学校の概要

学校規模

学級数：7学級（内特殊学級1学級）

児童数：88名

教職員数：12名

体験活動の観点からみた学校環境

世界一のカルデラ火山である阿蘇外輪山の一角を占める産山村は、人口1,800人余りで、広大な草原地帯と河川浸食地帯からなる。草原地帯は赤牛の採草や放牧，高原野菜の生産に利用され，侵食された斜面では杉や桧が植林されている高原型純農村地帯である。

農業経営の転換期を迎え離農や兼業化の傾向が強くなるとともに，近年，65歳以上の高齢の方が30%を越えるなど過疎・高齢化が進んでおり，村の大きな課題ともなっている。

本村は素晴らしい自然環境と純朴な村民性を維持しており，学校教育に対して理解と協力がある。特に，平成10年度より「学社融合事業」を推進しており，「地域の子どもは地域で育てる」というスローガンのもと，地域人材の学校教育への導入と活用を積極的に図るなど，学校と地域社会が一体となった多様な教育活動が展開されている。

連絡先

〒869-2703

熊本県阿蘇郡産山村山鹿460番地

電話：0967-25-2012

FAX：0967-25-2017

ホームページ：

[www.higo.ed.jp/es/asoyamga/](http://www.higo.ed.jp/es/asoyamga/)

電子メール：

[asoyamga@edu-c.pref.kumamoto.jp](mailto:asoyamga@edu-c.pref.kumamoto.jp)

体験活動の概要

活動のねらい

地域の高齢化に目を向け地域に生きる児童の育成

立場や価値観が異なる人と共に生きていくという考え方と実践的態度の育成

高齢者との交流により，生きた知識や人の生き方を学ぶ児童の育成

主な活動内容・方法(位置付け・期間等)

4年生以上の全児童を「子どもヘルパー」に任命し，村社会福祉協議会と連携し，独居老人への声かけやお手伝いボランティア等を行う。

お便り活動(週1回)

(学校創意の時間)

任命式・学習会(2時間×2回)

(学校行事)

お手伝いボランティア(年間18回)

(クラブ)

福祉施設訪問・交流(2時間×2回)

(総合的な学習の時間)

声かけ活動(随時)

(登下校時)

体制等の工夫

村内小学校との共通活動

社会福祉協議会によるコーディネート

民生委員，シルバーヘルパーの支援

ボランティア保険の加入

学校の窓口としての担当者設置

学校行事等への独居老人の招待

活動の成果等

地域の福祉や高齢化について関心が高まり，福祉学習の深まりにつながった。

長期休業中や休日等に福祉施設や独居老人を訪問し活動する児童が出てきた。

## 1 活動に関する学校の全体計画

### (1) 活動のねらい

ア 本村の課題である高齢化やそれに対応する福祉について関心を持ち、「自分もふるさとを支える地域の一員である。」という意識を高めつつ、高齢化社会への対応を自分なりに考えることができる。

イ 高齢者をはじめ、立場や価値観が異なる人間と共に生きていくという考え方と実践的態度を育む。

ウ 高齢者の生きた知識や優しさ、人間の生き方を学ぶことにより豊かな心を育む。

### (2) 全体の指導計画

#### ア 活動の名称

「子どもヘルパー」

#### イ 実施学年

第4～6学年

#### ウ 活動内容

お便り活動・・・・・・・・・・週1回ボランティアポストカードによる安否確認

任命式・学習会等・・・・・・・・4月の任命式と3月の活動報告会，学習会の実施

お手伝いボランティア等・・訪問によるゲームや会話，お手伝いボランティアの実践

福祉施設訪問・交流・・・・・・・・高齢者福祉サービスセンター「ほっと館」を訪問し，ゲームや歌等による交流や介護体験

声かけ等・・・・・・・・・・登下校時を利用した「一声かける活動」

#### エ 教育課程上の位置付け

活動の中心となる独居老人宅訪問は，特別活動（クラブ活動）の時間に位置付けている。

また，任命式・学習会等は特別活動（学校行事），福祉施設訪問は総合的な学習の時間の福祉学習の導入に位置付けている。お便り活動は学校の創意を生かした教育活動，一声かける活動は登下校時であり，教育課程外である。

#### オ 実施時期

お便り活動・・・・・・・・・・通年，毎週土曜日に届くようにお便りを書く。

任命式・学習会等・・・・・・・・4月に任命式，3月に活動報告会（学校行事4時間）

お手伝いボランティア等・・通年，年間18時間

福祉施設訪問・交流・・・・・・・・5年生，6年生の総合的な学習の時間に各3時間

声かけ等・・・・・・・・・・登下校時（随時）

#### カ 活動場所

主に校区内の独居老人宅（20軒）及び公民館

#### キ 継続の状況等

平成12年9月にスタートしたこの「子どもヘルパー」は，村民にも周知されるようになり活躍がますます期待されるようになった。子どもヘルパーの活動は4年生からであるが，学年の継続性をねらい「お便り活動」は1年生から始めており，高齢者との交流に対する意欲や関心を高めている。また，この体験を生かして総合的な学習の時間に子どもヘルパーがなぜできたかのプレゼンテーションや，子どもあるいはサービスを受けている高齢者のアンケート等をもとにした新聞作りを行い，地域に発表して村民の関心を集めている。

## 2 活動の実際

### (1) 事前指導(活動の意欲を高める「お便り活動」と「任命式・学習会」)

#### ア お便り活動(ふれあいポストカード)

4年生以上の児童による子どもヘルパーの中心的活動は、校区内の独居老人を訪問してのお手伝いボランティアやお話、ゲームを通しての交流であるが、早くから独居老人とつながり、活動の意欲を喚起するために1年生から全児童による「お便り活動」を行っている。

文面は「お元気ですか。」に始まり、学校でのこと、家でのこと、自分や友達のことなどで、校区内20名の独居老人に毎週土曜日に着くように全児童が書いている。

なお、声かけ活動がしやすいように、児童の自宅に近い独居老人に割り振っている。

また、この活動は、児童が書いたお便りを郵便局員が配達時に安否確認と励ましを行うという村社会福祉協議会の事業の一環でもあり、このことを児童に理解させる



(ふれあいポストカードの一例)

ことにより「地域の高齢者は地域みんなで支える」意識を高めることに配慮して指導している。

#### イ 任命式・学習会

4月に村基幹集落センターに、村社会福祉協議会及び学校関係者、民生委員やシルバーヘルパー、郵便局員等の協力員が出席して、4、5、6年生児童全員に「子どもヘルパー任命証書」と活動ノート、ヘルパー胸章が村長(村社会福祉協議会会長)から直接手渡される。

式では、村長をはじめ関係者から、村の高齢化の実態と子どもヘルパーの必要性や期待などを語ってもらい、また、児童が「子どもヘルパー任命証書」交付式において、活動の抱負を述べる場も設定し、活動に対する意欲づけとしている。

式後、各地区毎に児童と民生委員、協力員が班を作り学習会を行った。ここでは、自己紹介の後、児童が担当する独居老人についての情報交換やヘルパーとしての心構えを学び、具体的な活動の計画が立てられた。



(子どもヘルパー任命証書交付式)



(式後の学習会)



## (2) 活動の展開

### ア 交流会

第1回目の活動として、独居老人と子どもヘルパーとの顔合わせを兼ねて、各地区公民館毎に独居老人を招待し、ゲームやお話をする交流会を行った。

独居老人は、社会福祉協議会職員や協力員に依頼し送迎してもらい、各地区8名程度の児童は、学校職員が引率した。

交流会のプログラムは、学習会での協力員の指導により、各班の児童で立案し、リラックスできる内容となるよう各地区担当の学校職員が指導した。また、交流会後、協力員と反省会を持ち、今後の活動を話し合っている。

### 交流会プログラム(A班)

- 1 はじめのことば(児童代表)
- 2 自己紹介
  - \* 児童より
  - \* 独居老人より
  - \* 協力員より
- 3 ふれあいゲーム
  - \* 輪投げゲーム、肩たたきなど
- 4 お茶タイム
  - \* 昔の話を聞こう
- 5 おわりのことば(児童代表)



(交流会で肩たたきをするヘルパー)



(輪投げで楽しく交流)

### イ お手伝いボランティア等

校区内の約20名の独居老人のうち、子どもヘルパーのサービスを必要とする人との連絡、調整を社会福祉協議会職員と本校の担当者が行い、クラブ活動の時間を使って、平成13年度は年間18回の独居老人宅訪問を行った。活動内容は、窓拭きや草取り、清掃のお手伝いボランティアやお話ボランティアであった。

本校では、年間35時間のクラブ活動の時間のうち18時間を「全員クラブ」に、残りを「選択クラブ」と位置付け、この「全員クラブ」の中で活動を行っており、学校職員が引率し一緒に活動している。

できるだけ、設定した日に全員の子どもヘルパーが独居老人宅へ行けるように社会福祉協議会が



(窓拭きのお手伝いボランティア)

コーディネートするようにしているが、独居老人の都合によりその日に訪問できないグループが出てきた場合、他のグループと一緒に活動したり、高齢者福祉サービスセンターを訪問して交流したり他のボランティア活動をしたりしている。ここでは、お手伝いボランティアの後の独居老人との会話の時間を特に大切に子どもたちが高齢者の生きた知識や生き方にふれられるように配慮している。



(お手伝いの後の楽しい会話)

#### ウ 福祉施設の訪問・交流

子どもヘルパー活動の発展として、高齢者福祉サービスセンター「ほっと館」や、授産施設の「インターワーク」の訪問と交流を行っている。

これは、総合的な学習の時間で設定している健康・福祉領域における5年生の「お年寄りを訪ねよう」と6年生の「障害のある方と共に」の共通体験として各2時間を設定しているものである。

施設職員による指導のもと、歌やゲームを通じた交流や竹細工や昔遊びの紹介などを行っている。



(おじいちゃん上手だね。楽しい竹細工)

#### エ 声かけ活動

子どもヘルパー活動の日常化を目指して、子どもたちが登下校の際に、通学路途中の独居老人宅を訪れて、「おはようございます。」、「いかがですか。」、「今、学校帰りです。」などの一声をかける活動をしている。また、緊急の際には、速やかに近くの家や学校に連絡をするように指導している。

#### (3) 事後指導

各活動の後には、活動ノートに内容や感想を記録させている。これらの記録をもとにして、この子どもヘルパー活動を総合的な学習の時間で発展させ、新聞や資料としてまとめる活動を行った。3月の6年生に対する感謝状授与式と兼ねて行われる活動報告会で、パソコン等を活用してプレゼンテーションを行った。

#### 3 体験活動のための体制

##### (1) 学校と村社会福祉協議会等との連携

本校のボランティア活動担当者と社会福祉協議会専門職員が連携を密にし、PTAの十分な理解のもと、村、教育委員会、村社会福祉協議会、民生委員やシルバーヘルパー、郵便局員等の協力員が協力し、本活動に当たっている。特に、独居老人との連絡は社会福祉協議会専門職員に依頼し、独居老人の心情や健康状態、都合を十分配慮するようにしている。

また、学習発表会等の学校行事には社会福祉協議会等に送迎を頼み、独居老人を招待した。

## (2) その他

児童の移動は、学校職員が公用車でっており、輸送中の事故に十分注意を払っている。

この活動自体には、お金がかからないが、輸送中や活動時の事故に対してのボランティア保険の加入料、活動ノート等の購入費、任命書や感謝状の印刷費等は全額を村費で負担している。

### 4 成果と課題

活動後に実施した意識調査によると、97.5%の子どもヘルパーが「高齢者とふれあえる」、「話がおもしろい」、「喜んでもらえる」という理由でヘルパー活動が楽しいと答えている。好きな活動内容としては、会話(43.1%)、ふれあいゲーム(37.3%)、掃除(19.6%)となっており、高齢者の笑顔や喜びを自分の喜びとしてとらえる、より次元の高い「楽しさ」を享受している。また、夏休み中に、毎日、高齢者福祉サービスセンターに通って、自主的に介護ボランティアを行った児童がいたが、自主的に休日等に独居老人宅を訪問した児童が33.3%いた。

子どもヘルパー活動は、子どもたちが他人と接する中で葛藤を感じながらも自発性、無償性、公共性、先駆性といったボランティアスピリッツを育て、地域に目を向け、共に生きる喜びを享受できる活動へと進展しつつある。

課題は、日常的、自主的な活動をどのように促し、子どもたちの地域活動の質を高めていくかである。

### 5 今後の取組の方向

この「子どもヘルパー活動」は、村全体で推進している活動であり、その社会貢献が認められ、いくつも表彰を受けるなど評価されており、今後も発展・充実させていくこととしている。

平成14年度から実施される完全学校週5日制に対応して、子どもヘルパー活動が土・日の活動としても成立するように、シルバーヘルパーが訪問活動時に子どもたちを誘ったり、社会福祉協議会が行う各種サービスにも子どもたちに参加を促すなど、受け皿づくりを一層進めたい。

#### 【本事例活用に当たっての留意点】

本校の体験活動は「子どもヘルパー」という活動を中心に行っている点に特色がある。この活動では、まず4、5、6年生児童全員が村社会福祉協議会会長から「子どもヘルパー任命証書」が手渡され、ヘルパーとしての心構えを学習した後、交流会、窓拭きや清掃などのボランティア、福祉施設の訪問・交流、登下校の際に独居老人に声をかける活動などが行われている。活動全体は事前指導、活動の展開、事後指導と系統立てられ、社会福祉協議会専門職員、民生委員、シルバーヘルパー等との連携・協力の中で実施されている。その結果、児童は高齢者との交流の中から様々な生活の知恵を学んだり、活動を喜んでもらえたりすることから、自主的にボランティアを行う児童が現れているという。

このような活動を行うためには、社会福祉協議会や地域との密接な連携を図るとともに、独居老人のプライバシーに十分留意することが大切である。